9 Anopheles saporoi の幼虫飼育法の検討
沖縄産A. saporoiは当研究室の実験結果によるとネズミマラリアPlasmodium
yolii nigerienseの媒介能力が沖縄産
A. minimusやA. sinensisに比べて高く実験
マラリアのモデル蚊として有用であることがわかったが、幼虫飼育が難しく実験室内における
安定供給が困難であった。今回、本島北部の湧流
で採集した幼虫を実験室で飼育法を検討し、わが国に
初めて、報告をもって飼育が可能になった。幼虫飼育法が
これまでの飼育法と異なり、幼虫飼育の方法として
幼虫飼育を試みた。幼虫飼育の方法として
幼虫飼育が最も長かったのは、摂食量が
増加し、形態が成長し、飼育の程度が
高まると考えられる。摂食量が
成長すると考えられる。

10 採集時間とダニ収量の関係について
沖縄産A. saporoiは当研究室の実験結果によると
ネズミマラリアPlasmodium yolii nigerienseの媒介能力が沖縄産
A. minimusやA. sinensisに比べて高く実験
マラリアのモデル蚊として有用であることがわかったが、幼虫飼育が難しく実験室内における
安定供給が困難であった。今回、本島北部の湧流
で採集した幼虫を実験室で飼育法を検討し、わが国に
初めて、報告をもって飼育が可能になった。幼虫飼育法が
これまでの飼育法と異なり、幼虫飼育の方法として
幼虫飼育を試みた。幼虫飼育の方法として
幼虫飼育が最も長かったのは、摂食量が
増加し、形態が成長し、飼育の程度が
高まると考えられる。摂食量が
成長すると考えられる。

室内版のダニ採取については、採取機を使用するのが
一般的であるが、1m²当たり何秒間採取するかは、研究者
によってまちまちである。採集時間によって、ダニ収量が
どの程度異なってくるかを検討した。
沖縄産A. saporoiは当研究室の実験結果によると
ネズミマラリアPlasmodium yolii nigerienseの媒介能力が沖縄産
A. minimusやA. sinensisに比べて高く実験
マラリアのモデル蚊として有用であることがわかったが、幼虫飼育が難しく実験室内における
安定供給が困難であった。今回、本島北部の湧流
で採集した幼虫を実験室で飼育法を検討し、わが国に
初めて、報告をもって飼育が可能になった。幼虫飼育法が
これまでの飼育法と異なり、幼虫飼育の方法として
幼虫飼育を試みた。幼虫飼育の方法として
幼虫飼育が最も長かったのは、摂食量が
増加し、形態が成長し、飼育の程度が
高まると考えられる。摂食量が
成長すると考えられる。

11 最近の宮古島のコガタハマラガラ
Anopheles minimus幼虫の発生状況
宮城一郎1,2
(1. 宮島 医療センター) Survey of An. minimus larvae in
Miyako Is., Ryukyu Archipelago. T. Toma
and 1. Miyagi

コガタハマラガラAnopheles minimusは熱帯熱
マラリアの媒介蚊として著名で、宮古島を指北として
東南アジアに広く分布している。宮古島は1960年に
マラリアが根絶されるまでマラリア被害地であった。
最近の宮古島におけるコガタハマラガラの発生状況
について調べた。

調査は1991年2月と1995年7月に20湧水溪流、23
地点で行った。

1991年2月は5湧水溪流5地点、1995年7月は4
湧水溪流5地点でコガタハマラガラを採集ことができた。
コガタハマラガラが発生していた水泉は少なく、個体数も少なかった。最も多くのが個体が得られた
下地町洲崎にある果樹園の湧水で、1991年2月
には平均0.09個体、1995年7月には果樹園近くの
湧水で平均0.2個体を得たのみであった。

以前、地下水は湧水として地表に流れ出し、コガタ
ハマラガラの発生が発生場所となっていた。地下水中,
の含有量により本種の発生場所である地下水が減少し，
今回の調査結果のように個体数も減少して来たものと
考えられる。

NII-Electronic Library Service